

## 4年 愛川宿泊体験学習

6月28日(水)～29日(木)に、4年生が愛川宿泊体験学習に行ってきました。天候が心配されましたが、予定していた活動を全て行うことができました。



「全員が楽しめる最高の愛川！チャレンジ・団結・笑顔」というテーマを掲げ、自分の役割を自覚し、しっかりと取り組んでいたのがとてもすばらしかったです。

私は愛川で「協力の力がすごいな。」と思ったことが二つあります。一つ目は、キャンプファイヤーです。私はキャンプファイヤーの係で、練習の時から「だいじょうぶかな。」と心配だったので、みんながすごく盛り上がっている様子を見て気分が晴れました。二つ目は、なくしものをした時です。みんなが心配してくれました。私はこれまでに協力の力を知っているようで知らなかったのかもしれませんが、みんなのおかげで、私は愛川で「最高」を知ることができました。(4-1)

6月28日、29日はいつもと違う二日間でした。その中で、とても楽しかったことベスト1～5をしょうかいします。(途中略)2番目は、ぼくがプロジェクトで係になったキャンプファイヤーです。どうしてかというと僕自身が楽しめたと、参加していた人みんな楽しめていたからです。1番目は、愛川でみんなが笑顔になったことです。ぼくは疲れていてもその笑顔で、力が出てきました。だから、これからも友だちを大切にしていきたいです。(4-2)

私は愛川で、みんなと心が一つになれたと思います。私はキャンプファイヤープロジェクトでしたが、練習ではあまり大きな声が出せませんでした。でも、思い切って大きな声を出してみたら、自分に自信が持てました。そして反省会の時、友達に「すごいね。」と言われてなんだかみんなと心が一つになれた気がしました。新しいことにチャレンジしたからこそ成長でき、みんなの心が一つになって、最高の愛川になったと思います。(4-3)

## 5年 子浦宿泊体験学習



7月5日(水)～7日(金)の2泊3日で、5年生は南伊豆臨海学園(子浦)に行ってきました。台風の進路が心配でしたが、アジの干物作り、館内きもだめし、カッター・カヤック・浜レクなどの海活動、キャンプファイヤー、日和山ハイキングなど、予定していた活動を行うことができました。子どもたちは体験学習スローガン「海のHEROに挑戦～笑顔・団結・あきらめない心 子浦で最高の思い出つくろうぜ！！～」を意識した活動ができていました。

宿泊体験学習を通して、「だれかのためにがんばろう」「みんなのためにやらないようにしよう」など、自分のことしか考えるのではなく、だれかのため、みんなのためになることを見つけ行動することができるようになりました。ぼくは、子浦に行って、いろいろな力を身につけることができました。(5-1)



自分たちでたくさんの準備をしてきた活動だったので、活動がおわるごとに達成感がすごくあったし、それとっしょに、もうおわってしまったというさみしさもありました。みんなが活動してきたものだったから、よけいに、楽しく感じる事ができたと思います。(5-2)



私は、キャンプファイヤーでの誓いの火「気づく！自ら行動！勇気の火」を通して感じたことがあります。それは、気づくことはできていても勇気をもって自ら動かないと何も変わることができないので、もっと自ら考えて動けるようになりたいと思いました。(5-3)

(5-3)



## 青葉区小学校水泳記録会・横浜市立小学校水泳大会



7月31日(月)、4・5・6年生の代表児童が、鉄小学校で行われた青葉区小学校水泳記録会に参加しました。特別水泳教室での練習の成果を発揮しようと、がんばって泳ぎ、ベスト記録がたくさん出ました。

初めての記録会に背泳ぎで出ました。やる気はあったけれど3位でした。くやしかったけれどベストだったのでよかったです。ぼくが泳いでいるときに、「がんばれー。」と応援してくれたのでうれしかったです。他の学校の人の手のかき方、足のけり方がうまかったので、ぼくも少し直して、また記録会に出たいです。(4-3)

みた小の人にも、他の学校の人にも、全力で応援することができました。私もみんなに応援してもらってがんばることができたので、泳ぎ終わってからの応援にはいっそう力が入りました。来年までもっと練習して、もっと速くなって、最後の記録会を最高にしたいです。(5-2)

私は初めて記録会に出ました。50m自由形で自己ベストを縮めることができたのでうれしかったです。自己ベストを縮めることができたのは、みんなの支えがあったからだと思います。記録会に出て、たくさん学んだことがあったので、これからの学習にも生かしていけたらいいなと思います。(6-2)

8月24日(木)、横浜国際プールで横浜市立小学校水泳大会が行われました。みたけ台小からは、3人の児童が青葉区の代表選手として出場しました。当日は、練習の成果を発揮し、力強く泳ぎ切ることができました。

○女子50m自由形 (6-1) (5-3) ○男子50m自由形 (6-1)

## よこはま国際平和スピーチコンテスト

よこはま子ども国際平和スピーチコンテストへ向けて、国語の学習を通して「国際平和のために自分にできること」について考えてきました。学校を代表して6年生児童が青葉区審査会(6月27日)に出場しました。その後、審査会で優秀な成績を収め、青葉区代表として本選(7月25日)に出場し、国際平和への思いをスピーチで表現してきました。今後は、よこはま子ども国際平和プログラム子ども実行委員として、ピースメッセージの作成やユニセフ募金の活動を行っていきます。

### 誰もが住みやすい街に

今の社会は、私たちにとってどんどん「便利」な社会になっています。しかし、誰にとっても「便利」であるとは限りません。私は、ある出来事をきっかけに障害のある人にとって、まだまだ危険で暮らしづらい社会だなと考えるようになりました。

私が四年生のころ、視覚障害者の方に授業をしてもらったことがあります。声をかけるときは、困っていることがないか聞いてみることで、障害のある方が自分でできることをむやみに手伝おうとしないことなどを教わりました。それからしばらくして、母と散歩をしていると白い杖をついた視覚障害者のお年寄りに出会いました。せまい歩道で方向を見失い、困っている様子でした。だから、授業で学んだことを思い出して声をかけ、道案内をすることにしました。そのお年寄りは、今まで七回も駅のホームから転落してしまったことや音の出ない信号機では、自分の感覚だけで車の音を聞き分けて横断することなどを話してくれました。私はその話を聞き、視覚障害者は毎日命にかかわる危険の中で暮らしていることを知りました。もし私の目が見えなくて、一人で街を歩いていたら、こわくてたまらないと思います。だから、駅のホームには転落防止の柵をつけ、すべての信号機を音が出るものにかえてほしいと強く思いました。でも、自分で思っただけでは設備をかえることはできません。まずは一人一人が助け合う気持ちをもつことが一番大切なのではないかと思います。その気持ちさえあれば、誰もが平和な社会づくりに取り組んでいけるはずです。

しかし、障害のある人を見かけてもどう対応すればよいかわからず、声をかけられない人もいます。そこで立ち止まらず「何か手伝えることはありますか?」と聞いてみてください。たとえ、「大丈夫です。」と言われたとしても障害のある方に「私たちが気づかってくれる人がいる。」という安心感は伝わると思います。

障害のある無しだけでなく、「誰にとっても便利な社会」を目指すこと。そして一人ひとりが支え合うことで、必ずそこには「笑顔」が生まれてくるはずです。迷っていたら相手の気持ちを考えて一歩踏み出す。これが私たちにできること。平和への第一歩にもつながるはずです。

